

いま
言いたい
2012

北栄町は、風力発電、太陽光発電の自然エネルギーをはじめ、環境問題に力を入れていきます。脱原発をめざす首長の会の呼びかけ人になったのも、同じく環境問題に取り組んでおられる茨城県東海村の村上達也村長に誘われたからです。

「安全」が買える

風力や太陽光などの自然エネルギーは、再生可能エネルギーは、コストがかかると言います

鳥取県北栄町長、脱原発を
めざす首長の会呼びかけ人

松本 昭夫さん



松本昭夫

が、それで「安全」が買えると思えば安いものです。原発は、そもそも日本につくってはいけないうのでした。地震国の日本では、福島のような事故がいつ起こるか分かりません。

北栄町の産業の中心は農業です。スイカ、メロン、ラッキョウ、アドウ、ナガイモなどが特産品です。東に80キロ行くと島根原発があ

ります。西風が7割で、爆発すれば大量の放射性物質が短時間で飛んで来ます。ひとたび、土地が放射能で汚染されたら農業は壊滅です。国も電力会社も責任をとってくれません。

いま日本の原発はどこも、使用済み核燃料で原子炉建屋内のプールがいっぱいです。どこにも持って行くことができないからです。地層処分するといま

福島原発事故で認識がガラッと変わりました。原発は放射性廃棄物の問題があり、よくないと思っていますが、今回の事故で絶対だめだと思いました。原発をなくして、将来の世代が安心して暮らせる世界にしたい。

足で困るといわれます。しかし、蓄電技術をよくして電力需要のピークに対応したり、自然エネルギーを平準化することはできます。また、新しいエネルギーを開発することもこれからの課題です。

北栄町は、2006年に

07年から天ぷら油回収大作戦を始め、63自治会（公民館）に廃食油の回収ボックスを設置し、バイオディーゼル燃料をつくりマイカーパスなど公用車4台を動かしています。そのほかに菜の花プロジェクトや環境家計簿にも取り組んでいます。

温暖化対策として風車9基を設置しました。発電量は6600戸分に相当し、町全体の戸数5200戸を上回ります。中国電力に売電し、順調に推移しています。

太陽光発電も住宅への設置に補助金を出し、このたび町有地に地元の企業が太陽光発電施設（700坪）を設置することが決まりました。

原発、造っていけないもの

聞き手・写真
鳥取県・岩見 幸徳